

はやぶさ 第67号 2014年02月07日(金)

=====

発行責任者： 一般社団法人 経営特訓士協会（略称：KTGA）

理事長 平本 靖夫

（Captain 平本：（株）I&C・HosBiz センター）

編集責任者： 理事 石川 昌平

---

第4回 経営資源パワーアップ講座 2014年02月13日（木） 17時30分～19時30分

北区 北とぴあ（JR王子駅～徒歩2分、東京メトロ南北線 王子駅直結）

モノづくり系企業の収益力と資金力をアップする多品種・少量・短納期

工場管理支援システムと部門別管理会計システム

講師は 当社団法人 理事長 平本靖夫 です。

詳細は以下のHPを参照ください。

[http://keiei-tokkunshi.jp/data/mls723lpdf\\_2\\_38.pdf](http://keiei-tokkunshi.jp/data/mls723lpdf_2_38.pdf)

---

はやぶさのバックナンバーURL：<http://keiei-tokkunshi.jp/maga.php>

URL <http://keiei-tokkunshi.jp/?mail>

アドレス：[happy@keiei-tokkunshi.jp](mailto:happy@keiei-tokkunshi.jp)

=====

◆DVD「経営特くんゲームのすすめ方」と小冊子「経営のゴールド免許の取り方」を

---

プレゼントします。下記よりお申し込みください。

アドレス：[happy@keiei-tokkunshi.jp](mailto:happy@keiei-tokkunshi.jp)

=====

メルマガ「はやぶさ」 第67回目の発信です、5回シリーズのその2です。

著者：経営品質セルフアセッサー、当社団法人の認定インストラクター、  
(株) I&C・HosBiz センター執行役員

高橋 清

2014年3月13日(木)開催の、「第5回経営資源パワーアップ講座」は、  
筆者が講師をつとめます。直接、生の声を聴いてパワーアップするよい機会です。

第5回経営資源パワーアップ講座の詳細は、以下のURLページ：トップ画面を参照  
ください。

<http://keiei-tokkunshi.jp/schedule.php>

---

タイトル：今こそ求められる「経営品質向上プログラム」のご紹介 5回シリーズ

\*\*\*\*\* 本題 \*\*\*\*\*

その2：デミング賞と経営品質賞の関係は

エドワード・デミング博士のお名前はモノづくりに携わる人にはQC(品質管理)の大家  
として知られていることでしょう。

デミング賞を獲るために必死だった企業もたくさんありました。古くはテイラーの科学的  
管理法から始まった品質向上ジャーニーはデミングの「統計的管理法」に行きつきましたが、  
デミング博士の品質に対する考え方は「顧客評価のクオリティ」という画期的なものでした。

1950年(昭和25年)に日本に招聘された時の「品質管理8日間講習会」の講義録には  
こうあります(抜粋)

●メーカーは次の試験及び調査をしなければならない

- 1) それが良いかどうか
- 2) その良さの程度はどのくらいか
- 3) 顧客がそれを使ってみて、十分満足しているか
- 4) 顧客が、それを再び買うかどうか 5) あるいは、他社の製品を選ぶかどうか

●品質はお客様が評価する

作った製品が、すべての規格にまったく適合しているとしても、お客様が気に入らなければ、すべて不良品とみなければなりません。(規格はメーカーがつくったもの)

どうでしょう、今見ても素晴らしいですね。

ところが、本国のアメリカでは無名に近い存在で、デミング？フー？(デミングって誰?) だったそうです。日本研究によってデミング博士の偉大さに気づかされたアメリカは、デミング賞を基にマルコム・ボルドリッジ賞(MB賞)を創り上げました。

MB賞とデミング賞との違いはなんでしょうか。基本的には同じところが多いのですが、MB賞は日本の良いところを見習ったので、違いは2つあります。

## 1. “マーケット・イン” の概念の具体化

- 1) 何をすることが“マーケット・イン”なのか
- 2) それがどの程度のレベルにあるか把握するための指標は何か
- 3) その指標を時系列で見たときに、どのような傾向にあるか
- 4) それは競合他社と比べてどの水準か

## 2. アセスメント基準のオープン化

日本経営品質賞の狙いにはこうあります。

「企業活動全体を利益の源泉であるお客様の視点から運営し、かつ新しい価値を生み出し続けることのできる、国際的にも競争力のある「顧客主導に基づく経営のしくみ」をもつ企業に対して、その取り組みを毎年表彰することによって、産業界全体の革新を促すとともに、経済構造の変革、国際的に調和のとれた国民生活の質的向上を図る」

基準に適合しているか否かではなく、顧客主導で卓越した経営の品質を生み続けているかが問われるものとなりました。

今回は、MB賞を基に作られた日本経営品質賞のアセスメント基準の考え方と内容をご紹介します。お楽しみに。

2014年3月13日(木)開催の、「第5回経営資源パワーアップ講座」は、筆者が講師をつとめます。直接、生の声を聴いてパワーアップするよい機会です。

第5回経営資源パワーアップ講座の詳細は、以下のURLページ：トップ画面を参照ください。

<http://keiei-tokkunshi.jp/schedule.php>





場所、時間は今回のご案内と同じ：北トピア、17:30～19:30 です。

第5回 2014年03月13日（木） 「経営品質」とは

講師は、今回の執筆者で経営品質セルフアセッサー、  
当社団法人の認定インストラクター、

（株）I&C・HosBiz センター 執行役員である  
高橋 清 です。

詳細は、以下のHPを参照ください。

<http://keiei-tokkunshi.jp/schedule.php>

=====

編集後記

はやぶさのバックナンバーURL：<http://keiei-tokkunshi.jp/maga.php>

「はやぶさ」の第67号を発行しました。

---

・現在、起業希望者支援やアーリーステージの起業家支援をおこなっている組織とコンタクト  
しています。起業してから数年で消えていく企業が多いのは、企業経営のなんたるかを知らずに、  
かつ十分な訓練もせず、車でいえば無免許状態で、自分の想いと勢いだけでリスクだらけの市場  
に参入するからです。

そうならないためには、資金繰りと管理会計をベースとした損益を予測しながら、意思決定を  
して、たとえ、どんなにリスクがあっても、それを克服して、当初の計画通りの結果を得ること  
です。

経営特くんゲームは、擬似体験を通して、資金繰りと取引の意思決定を通じて、損益がでる  
しくみを体得できるようになっています。ポールポジションをとって勝利者になるためには、  
是非、経営特くんゲームで経営の極意を体得してください。

また、起業の初心者が最初のビジネスモデルで成功する確率は1割とされています。  
つまり、10回ビジネスモデルを変えて挑戦できるような資金配分と明確な計画があれば、

100%成功できます。ただし、進化・発展・持続していくためには、組織化が必要になります。

-----

読者の皆様から、ご要望や率直なご意見をいただけると、力が湧き、ありがたいです。皆様からのメールをお待ちしております。

アドレス：[happy@keiei-tokkunshi.jp](mailto:happy@keiei-tokkunshi.jp)

=====

一般社団法人 経営特訓士協会（略称：KTGA）

URL <http://keiei-tokkunshi.jp/?mail>

アドレス：[happy@keiei-tokkunshi.jp](mailto:happy@keiei-tokkunshi.jp)

配信解除URL：配信停止をご希望の際は、以下のアドレスをクリックしてください。

[http://asu12.com/d.php?t=test&m=stone\\_river@hosbiz.net](http://asu12.com/d.php?t=test&m=stone_river@hosbiz.net)

=====